



池田 嘉宏
YOSHIHIRO IKEDA
池田建設工業(株)専務取締役

「除雪の作業の手順は、まずダンプトラックの荷台にウエイトを乗せ、前にハイド板という雪を押し除ける板をつけた除雪車と、グレイダーという除雪専用車で除雪します。その後を融雪剤と水を攪拌したものをタンク車で撒きます。これでアスファルト道路の雪はほぼ無くなりますよ。」と池田さんは事も無げに話す。

ハイド板をつけた除雪車



ておくのが鉄則である。「区域は三社で県道の除雪を分担して作業しています。もちろん人手の足りない時には急遽、他の協会にもお手伝いをお願いすることもありますが。」と池田さんは言う。まさに雪との戦いである。



除雪専用車・グレイダー

「除雪の作業の手順は、まずダンプトラックの荷台にウエイトを乗せ、前にハイド板という雪を押し除ける板をつけた除雪車と、グレイダーという除雪専用車で除雪します。その後を融雪剤と水を攪拌したものをタンク車で撒きます。これでアスファルト道路の雪はほぼ無くなりますよ。」と池田さんは言う。

取材を終えて帰路につく。雪はまだ激しく降っているが幹線道路に雪はなく、白景の中を安心して走る。これも除雪作業のお陰だ。

岩国

防災パトロールは365日、気が抜けません



宮部 秀文
HIDEFUMI MIYABE
(株)ミヤベ 代表取締役社長

道路は生活動脈である。大切な道路を守ってくれてる人々がいる。岩国地域の道路維持・管理を永年やってこられた株式会社・ミヤベの代表取締役社長・宮部秀文さんと、常務取締役・宮部龍郎さんに話を聞いた。

災害は予測して

「待つ」ことが出来ない。

昭和四十八年頃から、県や建設省から、道路の維持・管理が民間企業へ年間管理業務として委託された。内容は通常の道路パトロールと災害時の緊急出動である。災害はいつ来るか分からない。ある意味、背を向けているところへ突然やって来るものである。待つ人はいない。「私達はその災害を準備して待ちながら生活しているみたいなのです。しかも、その時もまず自分達の仕事現場の安全を確認をした上で、災害地へ出かけるんですよ。」と宮部さん。住民の安全を守れたという喜びはあるが、苦勞もある。年間、特に台風や凍結の時期、担当日の社員は帰宅してもお酒も飲めずに緊急に備



足場も危うい作業

えている。また、台風上陸で社員が集まっている所へ、家族からの電話。「家が危ないので帰って来て欲しい。」と言われる。台風は社員達の家にも来る。不安な時に「お父さん」がいないのは心細いことだろう。「こんな時はつらいですよ。」と宮部さんは言う。

建設業者がなぜ、交通事故現場に？

建設業は地域に密着した住民の理解の上に成り立つ仕事である。だから道路管理業務は、奉仕というよりは目頃のお返しのもりである。人材と機材を持ち、資材を常にストックできている。また、永年の経験から得た知識は災害時に即座に判断する力もある。つまりいつ、どこで、どんな規模で起きるか分からない災害に対して、的確に対処できるノウハウを持っている。だから建設業にこの仕事が依頼されるのも、もつともことである。

作業は常にすばやく



機械力はお手もの



の地主を探して撤去の許可をもらうのも、全て建設業者がやっているのだから。ところがニューズなどでは当然協力した企業名が出るわけもない。だから一般の人々には、「なぜ、交通事故の現場に建設業者が？」という疑問が生まれるのも当然である。「仕事ではなく貢献活動であるということが理解されてないのは、ちょっと淋しいです。私達はPRがうまくないのでね。」と宮部さんは笑う。

365日が待機体制

いつでも、あらゆることに対処できるには、それなりに準備と心構えが必要なものである。しかし、その緊張感を常に保ちながら生活している人達がいることを、これを機会に知って欲しいものだ。いつも三百六十五日道路を守っている人達がいるから安全な生活が安心して送れるのである。

阿東

“陸の孤島”を解消する除雪作業

この冬は雪が多い年となった。雪で閉ざされた私達の足を確保するために、道路の除雪は雪国には欠くことのできないものである。阿東町の池田建設工業株式会社・専務取締役の池田嘉宏さんに雪の話聞いてみた。

天気予報で

明日の予定が決まる

取材の日も、前方が見えなくなるような大雪である。池田さんは、今日もすでに作業を終えられたところであった。

作業工程は、前日の天気予報であらかじめ予定を決める。翌朝、土木事務所から積雪状況が知らされる。積雪十五センチ以上が除雪の基準である。早朝五時過ぎに作業を開始。作業時間は雪の量によって多少違うが二〜三時間程で終わる。人が動き始める前に除雪し

作業の大変さよりも

気がかりは行き帰り

取材中、窓の外の雪は量を増して降る。作業する上での苦勞を聞く、「作業は積雪量が多ければ大変ではあるけれど、それよりもまず気をもむことは、召集した作業員が無事に会社に出てくるかどうかです。遅れたりすると途中でもしかしたら：：なんて考えてしまいます。いずれにしても雪が相手ですから危険はついて回ります。作業を終えて帰って来るまで安心できません。まあ、つらいと言えども年始もないということですかね。」と笑いながら語る。人々の足を確保するという大事な役目を果たしているんだという思いで作業している。今まで二十年間やって、事故は一度もないとのことである。

雪をドンドンかきわけて



語る池田さんに、雪に慣れていない人へのアドバイスを聞いた。「スキー客の中には、ノーマルタイヤでまだ除雪作業中のところへ入って来て、当然動けなくなる。そしてチェーンも自分で巻けない。これが一番まずいですね。まず除雪されているかどうか調べることに、とにかく雪の降る日はタイヤ、チェーンなどの雪用装備をして走ること。これが大切でしょう。」とのこと。十一月末から翌年の三月まで雪の降る日に備えている。「損得勘定なしの奉仕の気持ちです。車がなければ生活できない今の時代、少しでも助けになればと思っています。」と答える池田さんが頼もしくなる。